



7月臨時議会 コロナ関連補正予算の成立

7月30日に臨時議会が開かれ、コロナ対策関連補正予算が成立しました。補正予算で実施する主な事業の内容について報告します。（1,000円以下切り捨て）

- ・4月27日時点住民台帳に登録があり、その後死亡した単身者が対象に1人10万円支給します。遺族の申請が必要です。1,104万円
- ・中学3年生部活動終了後に行う、自主的な交流試合に要する費用48万円
- ・指定避難所でのコロナ対策のための備品及び、被災地派遣におけるコロナ対策のための備品に要する費用。1,016万円
- ・民間の保育園や学童等児童福祉施設で働く職員に対し1人5,000円の応援金が支給されます。1,371万円
- ・今年度（4月28日から3月31日まで）に生まれた新生児に対し1人10万円を母親に給付します。23,710万円
- ・感染した妊産婦に対する支援、分娩前ウィルス検査、オンライン保健指導に要する費用。3,390万円
- ・豊橋駅からシャトルバスでエールの舞台になった伊古部海岸やナイトZ00の動物園まで運行する事業費。無料で利用出来ます。430万円

※新学校給食共同調理場（仮称）整備・運営事業について5億6337万8千円に金利変動等による増減額を加算した金額が債務負担行為の追加として計上されました。工事中地下より埋設物が大量に掘り出され、市の責任において、廃棄物処理法に基づく処理等に必要予算とのことです。追加工事により調理場運営開始が7ヶ月延長します。



第6次豊橋市総合計画の議論始まる



斎藤ひろむ

7月7日と13日に第6次総合計画等策定等調査特別委員会が開かれ「第6次豊橋市総合計画（案）」について議論されました。

総合計画というのは、自治体の最も基本となるまちづくりの計画で、豊橋の場合2021年度からの10年間のまちづくりの基本的な方向と施策や事業を総合的な体系に示すものとして作られます。

総合計画は「基本構想（理念）」と「基本計画（政策）」そして「実施計画（事業）」の三段構成で成り立っています。今回の計画では、この基本構想と基本計画の案が議会に示されました。

基本構想では、まちづくりの「基本理念」として「私たちがつくる 未来をつくる」というスローガンが示され、そし

て市民一人一人の行動理念として「自立」「挑戦」「共生」というキーワードが挙げられました。

さらに8つの「めざすまちの姿」が挙げられて、それぞれに基本計画で政策が示されていくという構造です。市政にかかわるすべての分野を網羅したものですから、大変ボリュームのあるものです。

市議団としては、市民が市政をつくるという視点はよいものの、「自立」というキーワードが、市が市民を支える役割を軽んじるような響きがないかなど、懸念するところを指摘しました。

また、各分野の政策について、コロナを踏まえた危機管理や、自給率の向上をめざすこと、ジェンダーの視点を盛り込むことなどについて確認をしました。これからの豊橋の在り方を大きくとらえて、市民が主人公の市政運営ができるような議論を進めます。

リレーコラム 中西みつえ

新型コロナ感染拡大の影響で、市内の文化イベントが中止になる中、44年の歴史を持つ「豊橋演劇鑑賞会」の舞台公演も、3月・5月例会とも延期になりました。公演の中止・延期により、劇団にとって存続の危機に陥り、鑑賞会にとっても文化活動がストップし、会員を大幅に減らしました。

緊急事態宣言が解除され、このほど7月例会より感染対策を徹底して当日の準備が行われました。今回「劇団文学座」を豊橋にお迎えすることが出来たことは、会員の1人として万感の思いでした。



そもそも日本の文化予算がフランス、韓国など諸外国に比べ10分の1程度です。2020年度では1,067億円、国家予算の0.1%にすぎません。

コロナ対策でも芸術・文化団体への補償はなく、限定的な支援金に留まっています。鑑賞団体には一切の支援はありません。

現在文化施設はコロナ対策のため収容人数を定員の50%以内に定めています。これによりステージ数を増やしての対応で、上演料や会場費もかさみ活動を困難にしています。今後、公共施設使用料の減免等、豊橋の文化・芸術活動を応援していくための対策が必要です。

※ N0.98号で、記事の一部が削除されていたことをお詫びします。訂正した記事を再掲します。